

アカゲザル (*Macaca mulatta*)

1. 評価ランク：

2. 原産地： 中国、インドシナ半島北部、ミャンマー、ネパール、インド北部、パキスタンとアフガニスタンの北部

3. 定着実績： 千葉県房総半島に 1995 年より定着が確認されている

4. 評価の理由

- ニホンザルが生息可能な環境では本種も生息が可能であり、千葉県ではニホンザルとの交雑が確認されていることから、遺伝的かく乱により在来の生態系に被害を及ぼすおそれがある。
- 千葉県内の一部地域では被害対策として捕獲等が進められている。

5. 被害の実態（代表的な事例）

（1）生態系に係る被害

- 千葉県白浜地区の個体群はアカゲザルを基礎とする個体群であり、ニホンザルの個体群生息地に 20km の位置に生息しており、糞サンプルから DNA 解析によりアカゲザルに近いと判定された交雑個体群が確認されている（文献 ）。
- 白浜町では、約100 頭程が確認されているが、オスのアカゲザルが、ニホンザルが生息している鴨川市や鋸南町に回遊していることが確認されている。（千葉県 平成 13 年度 9 月定例県議会、文献 ）。

（2）農林水産業に係わる被害

- カキ、柑橘類などに関する農作物被害が報告されている（文献 ）。

6. 影響をもたらしている要因

（1）生物学的要因

- ニホンザルが生息可能な環境には本種も生息が可能と考えられる。
- 原産国では熱帯林から標高 4,000m の山岳まで多様な環境に生息するが、原生的な環境よりも人為的な攪乱を受けた環境での密度が高い。様々な環境下で生息が可能だと考えられる。
- アカゲザルもニホンザルと同様にオスの個体は生まれ育った群れを離れ、別群れに入り込む習性を持っているために、常に交雑の危険性があると考えられる。

- 増加率は高くないが、比較的長寿命で、安定した繁殖を行う。
- 雑食性であり、小動物や鳥卵も摂食する。
- 手先が器用であり、飼育施設からの逃亡を起こしやすいことが懸念される。

(2) 社会的要因

- 小型で比較的扱いやすいため、実験動物、ペット、展示用としての利用、輸入がかなりあり、逃亡や遺棄が起こる可能性がある。

7. 特徴ならびに近縁種、類似種などについて

- 頭胴長 47～64cm、尾長 19～30cm、体重が 5～8kg 程度。
- ニホンザルよりの長い尾をもち、腰部分が赤毛である。

8. その他の関連情報

- 実験動物として頻繁に用いられている。

9. 主な参考文献

千葉県立中央博物館 (2004) 千葉の外来哺乳類 - 春の展示「持ち込まれたケモノたち」解説書, 14p.

千葉県環境生活部自然保護課・房総のサル管理調査会 (1995) 平成 7 年度房総半島における野生猿管理対策調査研究事業報告書, 97pp.

千葉県環境生活部自然保護課・房総のサル管理調査会 (1998) 平成 10 年度房総半島における野生猿管理対策調査研究事業報告書, 124pp.

千葉県環境生活部自然保護課・房総のサル管理調査会 (2002) 平成 13 年度房総半島における野生猿管理対策調査研究事業報告書, 102pp.

Long, J.L. (2003) Introduced Mammals of the world. CABI Publishing, 589pp.

田中均 (1973) アカゲザルの混血児に思う, モンキー 131/132:6-11.

萩原光・川本芳 (2001) 房総半島におけるニホンザルと外来種の混血に関する研究, 霊長類研究所年報, 31:147.

和田一雄 (1973) ヒマラヤ山麓のアカゲザル, モンキー 131/132:6-11